北広島ふるさと夢プロジェクト便り

令和４年１２月
北広島町内小学校

６年生　夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう

令和４年９月２７日（火），北広島町内の全小学校６年生児童を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小学校は，次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

○　植松電機　植松努代表取締役の講演を通して，夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
○　ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して，科学への興味関心を高める。

今年で９年目を迎え，これまでも先輩たちが学びそして体験してきており，その内容を伝え聞いている６年生の子供たちがとても楽しみにしている事業です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため，過去２年間はリモート方式で開催していました。今年度は３年ぶりに北海道から植松先生をお招きし，町内８小学校の６年生が KumahiraPark 北広島（千代田運動公園）に集合しての講演会並びにロケット製作を実施しました。

講演会・ロケット製作の概要や講演会当日の雨天により，後日，各小学校で実施したロケット発射の様子等について紹介します。

植松努先生講演会　演題「思うは招く～夢があれば，なんでもできる～」

植松先生は，小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために，ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケットづくりを始められ，その後，幾多の困難を乗り越え，民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。子供達は植松先生のユーモアと感動のある話に引き込まれ，将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学び，他では得ることができない多くの力強い「言葉」をいただきました。その一例を紹介します。

○人の出会いには意味がある。　　**○人は足りないからこそ助け合える。**
○奇跡を起こせるキーワード　「ちがうはすてき！」。
○失敗はデーター。乗り越えたら力になる。
○自分の夢をどんどんしゃべろう。
○未来はわからない。だから未来をあきらめる理由はない。
○「どうせむり！」は自信と可能性を奪う最悪の言葉。
○伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。

講演を聞いた児童の感想

私が心に残ったのは，「不安や苦労の先に喜びがある。」という言葉です。今，運動会のことですごく悩むことが多いです。でも，やり切ったときの感動やうれしさは，がんばった分だけ大きくなると思えたので，みんなでもっと良くなるように協力していきたいです。

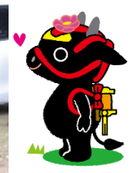
ぼくは植松さんの話の中で，「不安の先に喜びがある」という言葉が心に残りました。不安になったらすぐにやめてしまうのがぼくですが，間違いや失敗を恐れずに挑戦していきたいと思いました。そして夢に向かって頑張りたいと強く思うようになりました。

みんなで協力し，夢のロケット完成！

ロケットづくりでは，将来の夢がかなうようにと思いを込めて作りました。ロケットに模様を描くとき，失敗したらどうしようと思い,なかなか描けませんでしたが植松さんの「失敗することが怖いから，自分のできることだけをするのはダメ。」という言葉を思い出し，思い切って描き始めることができました。

ロケットづくりは，班の人と協力して作ることができました。わからないことや心配なことを声に出して聞くことで，安心して作ることができました。
パラシュートのひもをきれいにまっすぐつけるのが難しく，何回もやり直しましたが，あきらめずに最後までやりきることができました。

ロケット製作・発射の様子

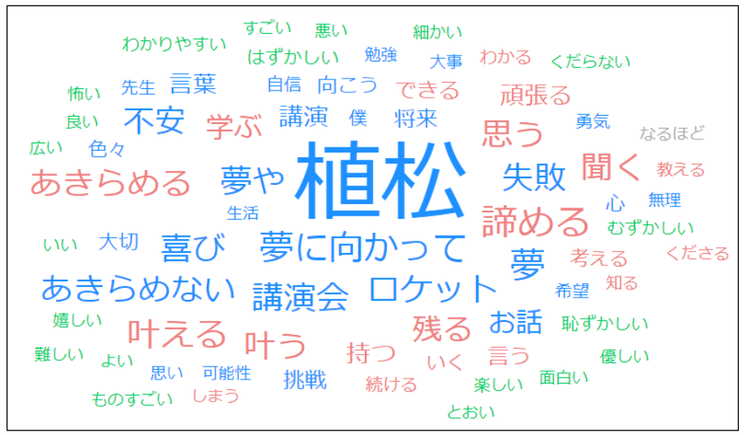


ロケットが高く打ち上がり，とても嬉しかったです。植松さんがおっしゃられた，「不安の向こう側には喜びがある。」ということを実感しました。私は，自分の夢をあきらめようとしていましたが，この夢プロのおかげで，もう一度，夢に向かってチャレンジしようという気持ちをもつことができました。

学校で大休憩に，全校のみんなの前でロケットを飛ばしました。自分で作ったロケットが，本当に飛ぶのかなと不安でした。でも，飛ばしてみたらちゃんと飛んだし，飛んだ時「やったー！」と思いました。とてもうれしかったです。やっぱり自分で作った物・事が成功すると，うれしいんだなと思いました。

児童のアンケート結果から

右の図は，植松先生の講演に係るアンケートで児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図です。繰り返し出てきた単語が大きく表示されます。「夢に向かって」「あきらめない」注１「叶う・叶える」など，講演の内容から感じて欲しいキーワードが多く挙げられています。



「１　講演会の話は，夢と希望を持つことができるよい話だった」「２　友達と一緒に楽しくロケット作りをすることができた」のアンケートに対して９５％以上の児童が肯定的に受け止めており，事業のねらいが達成できたと考えられます。

（※注１「あきらめる」も多いですが，「（植松さんは）あきらめることがなかった」「（自分が）あきらめることがあった」などの表現が多かったためと推察されます）

コロナ禍にあって，今回も開催が危ぶまれる中，プロジェクトの企画・運営にご尽力いただいた北広島町・北広島町教育委員会の皆様，また運営に携わっていただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。